目黒稲門会 EXPRESS

★★★★★★2005年5月発行/第19号★★★★★

発行人:加藤榮護 編集長:藤岡長世 事務局: 〒153-0053目黒区五本木2-47-5 TEL:03-3713-2096



2005年度 定時総会 開催

第6回 目黒稲門会定時総会を7月9日(土)下記の通り開催します。 任期満了の役員改選、昨年度活躍をしました各部会の活動報 告と決算報告、新年度の予算案等の審議が予定されています。

また、総会後恒例の懇親会は新会場「こまばエミナース」で、来賓の方々や会員相互の親睦を深め、デキシージャズバンド・デキシーフレンズも登場して賑やかになり、参加者全員で肩を組み熱唱する「都の西北」で最高に盛り上がることを期待しています。

多数の皆様のご参集をお願い致します。

記

日 時 7月9日(土) 総 会 16時~17時 懇親会 17時~19時(予定)

会 場 こまばエミナース

目黒区大橋2-19-5 電話03-3485-1411(代)

井の頭線 駒場東大前駅(下北沢寄改札口 徒歩7分) 会 費 8,000円 (同伴ご家族 5,000円) 当日会場受付にてお支払い下さい。

(当日のキャンセルは会費を頂戴致します。ご了承下さい。)

☆ 当日送迎バスを運行致しますのでご利用下さい。 (こまばエミナースのマイクロバス)

①目黒駅付近 15時10分発 (目黒通り・みずほ銀行目黒支店前辺り)

②中目黒駅付近 15時20分発 (中目黒山手通り・GTタワー前辺り) 送迎バスご利用の方は利用番号を葉書に明記して下さい。

送迎バスご利用の方は利用番号を葉書に明記して下さい。 ☆ 総会に欠席の方は、必ず委任状に記名捺印をお願い致します。

☆ 同封の返信用葉書を6月20日(月)迄に、ご返送下さい

東京都23区支部 2004年度総会

4月27日(水)6:00PM 大隈会館において、2004年度支部総会が開かれました。

23区各区稲門会より、会長及び23区支部担当幹事、総勢50名が 参加し、目黒稲門会からは加藤会長と大竹が出席いたしました。

2004年度支部長区をされた手塚善雄支部長(千代田稲門会会長)のご挨拶に始まり、2004年度の活動報告、総会、会長会、オール早稲田囲碁祭り、稲門祭、総長杯ゴルフ大会の参加、中曾根元総理の講演とボニージャックスの歌で盛大に催された支部大会等の報告及び新役員の選出が青柳幹事長よりなされました。

そして、2005年度の活動方針(案)、予算(案)が次年度支部長区となる、荒川稲門会の清水幹事、阿部事務局長より提案されました。また一部会則の改定(案)が細谷組織委員長より出され、承認されました。

その後懇親会に移り、新支部長荒川稲門会会長・大久保信隆支部長のご挨拶、そしてご来賓、小林榮一郎校友会代表幹事、口元周策校友会事務局長、斉藤鉄生校友課長、校友課石森裕氏、中村仁氏の紹介もあり、大久保新支部長より手塚前支部長への感謝状の贈呈と続き、次に、小林代表幹事の乾杯のご発声とご挨拶を頂き、懇親会が和やかに繰り広げられました。

大いに盛り上がったところで、加藤目黒稲門会会長のご紹介、そして応援部OB石川範行氏の指揮で、高らかに「都の西北」を歌い、副支部長大田稲門会会長松本常男氏のご挨拶で閉会となりました。

目黒稲門会 23区支部担当幹事 大竹 一子

2005稲門祭 & HOME COMING DAY

開催日 10月23日(日)

10時~ ホームカミングデー式典

12時~ 稲門祭 アトラクション

14時45分~抽選発表(大隈講堂)

★ 稲門祭名物BIGな福引景品W記念品前売り中

≪前売り券をど~んと売って目黒稲門会の意地をみせよう≫ 7月9日(土)目黒稲門会総会の会場で前売り券販売をします。 1枚¥2,000円 会員の皆様の絶大なご協力をお願い致します。 詳細は同封の≪2005稲門祭≫のチラシをご覧下さい。

問合せ 目黒稲門会事務局 03-3713-2096



東京都23区支部 2004年度支部 総会

会員の消息

<訃報>

会設立時からの副会長・ゴルフ部会長の鈴木正明さんが、去る4月14日ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

追 悼 文 副会長 ゴルフ部会長 鈴木正明さん

「私に部会長をやらせてください」。ゴルフ部立ち上げの会合で鈴木さんは手をあげられた。入賞者にはクリスタルのグラス(目黒稲門会の名入り)を作成したが、いつの間にか図書券になり、今は賞金となった。鈴木流ベストグロスもユニークなものだった。大変に真面目で堅い人だった。当初は馬券もなかった。

表彰式は帰りのバスの中、缶ビールが1人1本しか積んでいない。 ゴルフの後はビールが旨いのだから、もっと出してくれの声が出たほどでした。ご自分の好きな赤ワインは何本も出てきました。校友会主催の総長杯は第1回から出場し、本当にゴルフを楽しんでおられました。特に第1回は、思いもよらず私が優勝しまして、そのお祝いを三金会(現三土会)でおなじみのすし八に戻り、ささやかに鈴木さんとやったことが、昨日のように思い出されます。昨年の11月5日の総長杯に、鈴木、保井、浅海の3人で会場の埼玉県にある、おおむらさきゴルフク ラブに向かっている車中、鈴木さんは1人でしゃべっていました。

春から血糖値が160と高めになり、カロリー制限で体重を落としているが、それにしてもちょっと減り過ぎている等々、耳を傾けているうちに、下りなければいけない東松山インターを通り過ぎてしまい、次のインターでUターンした出来事がありました。熱心に病気について話されていたことがすごく印象に残っています。

ゴルフの時の待ち合わせ場所はいつも元競馬場、東急ストアの前でした。今でも目黒通りを通ると、ゴルフバックを持って立っている鈴木さんを思い出します。

ありがとう鈴木さん。さようなら鈴木さん。 ご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

幹事長 浅海 敏之 (昭和34年 政経)

満 [空 往 帰]

- 外 岡 茂 十 郎 の 軌 跡 ⑥ -

外岡

6 6

明(26年理工·電)

1 そして新監督による昭和39年春のリーグ戦は、全学の期待を 集めて開幕した。

しかし、「新生早稲田」とは云いながら、好成績の予想は誰もして いなかった。

ところが早稲田は、立大に敗れたものの 明、東、法を破り7勝2敗1 分の勝点3で、8勝1敗勝点4の慶応と雌雄を決することとなった。

7シーズン振りに優勝をかけた早慶戦となり、5月30日神宮球場は、徹 夜組500人を含めて6万人の大観衆で燃え上がった。

試合は、逆転また逆転のデッド・ヒートを展開、3対3のまま延長戦に 入り、13回裏、早稲田は、一死満塁から三番打者が一塁右をきれい にぬいて、待望の決勝点を挙げ、4時間の接戦をサヨナラで先勝した。

二回戦は、早稲田が勝てば、勝率で上回る早稲田の優勝が決 まり、慶応が勝てば三回戦にもつれ込み、それで早稲田が勝てば、早 慶が同率首位で再度優勝決定戦となるのだ。

人、人、人で膨れ上がったスタンドは、昨日を上回る6万5000人の大 観衆で埋まった。

先勝で意気上がる早稲田は、一回表、慶・立二回戦で「六大学野球 史上初の完全試合」を演じた慶応渡辺に連打を浴びせ、7球で先 取点を奪う速攻で、一挙4点を挙げた。そして6回には、3点を加えて 渡辺をKOし、結局8対3の大差で連勝して、昭和35年秋(早慶六連 戦)以来7シーズン振りの優勝を遂げた。

6月2日付の日本経済新聞の「六大学野球総評」欄はこう記している。

「今シーズンは、、慶大・法大の優勝争いと見られ、早大は良くて3 位というのが、衆目の一致するところだった。早大は過去6シーズンB クラスに甘んじており、メンバーも昨秋5位の時と変っていない。変っ たのは監督だけだった。しかも石井藤吉郎新監督は、水戸商業の 監督を一度やっただけで、監督としての手腕は未知数に近い。つま り早大を優勝候補とする理由は無に等しかったわけである。

前監督は、素材を鍛えあげ、精神力を吹き込むことはうまかったが、選 手の力を試合で引き出し、結集させることが出来なかった。

石井新監督は、前監督になかった包容力、指導力が特に優れていた。 つまり早大の優勝は、新旧両監督の合作であり、また監督交代騒ぎ に発奮した全選手の努力のたまものである…」。

また、「早稲田学報」6月号のインタビュー記事は、「石井監督のことばし として次の様に紹介している。

「今シーズンは全員Aクラス復帰を目標に一戦一戦全力をつくして 戦ってきました。こんなにうれしい優勝はありません。勝利は石井前 監督のがっちりした基礎練習と選手の自覚の上にもたらされたもので す。

これから(石井)連蔵君と共によろこびたいと思っています」と。

そして外岡は、その年の9月、野球部長を辞任した。

昭和17年 野球部長就任以来23年。昭和10年からの専門部野球 部長を含めると、実に30年に亘る早稲田大学野球部との長き縁しで あった。

野球部 歴代部長・監督(創部から昭和40年まで)

歴代野球部長(優勝回数は大正6年以後)

期間 年数 明治34年~明治39年 安部磯雄 (6年)

明治40年~明治43年 高杉滝蔵 (4年)

明治44年~大正15年★安部磯雄(16年) 100

大正15年~昭和7年 昭和8年(代理)

高杉滝蔵 (7年) 寺沢信計 (1年)

優勝回数

20

16 学生野球に学ぶ

昭和 9年~昭和16年 山本 忠興 (8年) 昭和17年~昭和39年★外岡茂十郎(23年) 140 昭和39年~昭和43年 中谷 博 (5年) 2 [1] ★ 印は「野球殿堂入り」した方 追記

樫山欽四郎(昭和44年~)、滝口宏(昭和52年~) 正田健一郎(昭和54年~)、片岡寛光(平成5年~現在)

歴代監督

期間 年数 優勝回数 明治34年~大正8年 なし (19年) 大正 9年~大正14年 ★飛田 忠順 (6年) 80 大正15年~昭和 5年 ★市岡 忠男(5年) 20 昭和 6年~昭和 8年 大下 常吉 (3年) 10 昭和 9年~昭和11年 久保 田禎(3年) 20 昭和12年~昭和14年★田中 勝雄(3年) 1 [11] 昭和15年~昭和20年★伊丹 安広 (6年) 2回 昭和21年一昭和22年 相田 暢一 (1年半) 10 昭和22年~昭和32年★森 茂雄 (11年) 90 昭和33年~昭和39年 石井 連蔵(6年) 20 昭和39年~昭和49年★石井藤吉郎(11年) 60

★ 印は「野球殿堂入り」した方

石山健一(昭和49年~)、 宮崎康之(昭和54年~) 飯田 修(昭和60年~)、石井連蔵(昭和63年~)

佐藤 清(平成7年~)、 野村 徹(平成11年~)

外岡は、自著『フェア・プレー』(一その日・その時一)(昭和42年再 刊)の中で、30年余に亘る学生野球との関わりの中から得た、人生 観なり、教育観なりを《学生野球に学ぶ》として述べているので、以 下その要約を記します。

16-1 ラッキーということ

野球の世界でも、ラッキーということがよくいわれているが、その中には、 ラッキーというだけでは片付けきれないものがあるように思われてなら ない。

その一つ。戦前の春の早慶戦でのこと。

早稲田、2対3と1点リードされて最終回の攻撃。 一死満塁。一打 同点か、逆転かで満場興奮の坩堝と化した場面で、慶応は投手交 代直後の一球目を、ランナーの意表をついて三塁へ牽制球を投げ、 三塁手は返す球で二塁へ矢の様な牽制、二塁ランナーは虚をつか れタッチアウト。一瞬にして明暗ところを変えてしまった。 一塁早稲 田側応援席は、しばし呆然として声もなかった。

二塁に憤死し、最後のチャンスをむざむざ潰した二塁ランナーは、首 をうなだれて悄然としてベンチに帰ってきた。監督や僚友から慰めの 言葉をかけられると、彼は見栄も外聞もなく、ジャンパーを頭からかぶ って泣き崩れてしまった。ところが、不思議にもベンチには、この失策 に失望したり、彼を責めようとする様な焦燥不安の気配は、微塵も起 こらなかった。

蓋し、それには、それだけの理由があったのである。

彼は、二年生ではあったが不動の四番打者で、信頼のおける正捕 手として、チームには不可欠の選手であった。それにも拘らず、彼は日 頃、レギュラーの練習が済んでも一向に合宿に引き揚げ様とはせず、 そのままグランドに残って、新人や二軍の者たちと一緒に、黙々と練習 を続けていた。彼のこの精進ぶりを知っている僚友たちは、彼に敗戦 の責を負わせてなるものか、彼の失策は俺たちが償ってみせると、ベ ンチの全員に烈火のような闘魂を沸き立たせることになったのである。 果たせるかな、二死一・三塁となった早稲田は、次打者が 二塁左へ ゴロで安打して同点とし、次が四球で再び満塁。そして、次々打者 が中堅前に安打して、5対3と逆転勝ちしてしまったのである。

しかし考えてみれば、ラッキーとも云えることである。もし二塁で刺され ずに塁が埋まっていたら、次打者の二塁ベース寄りのゴロは、当然ダ ブルプレーで慶応に凱歌が揚がっていたであったろう。

二塁が空いたからこそ、慶応は定守備位置に戻ったのであり、そして 内野安打が生まれ得たことを思えば、天は常にみずから精進努力す るものを助ける。ラッキーは決して寝て待つべきものではない。 心不乱に精進錬磨するところに、ラッキーは祈らなくとも、自ずから宿り くるものではなかろうか。 勝つには勝つだけの理由があり、負ける には負けるだけの理由がある。野球は断じて水ものではない。

我輩は養子である

目黒稲門会 会長 加藤榮護

昭和34年5月27日に我々は結婚した。

結婚した当初は山村姓を名乗っていた。小生は7人兄弟姉妹の 次男、順番で言えば5番目である。我が家は熊本県阿蘇郡高森町で 代々日本酒の造り酒屋を営んでいる。

小生の上に3人の姉と一人の兄、下に賢弟が二人。3人の姉たちは女学校を卒業すると間もなく結婚してしまい、一緒に生活した時期は幼児期を除いて、殆ど無きに等しい。

小生は昭和33年早稲田大学を卒業し就職、会社の寮で新人3人が一部屋で生活することとなった。初任給は12,000円。 月末近くなると、人事関係の先輩にちょっと飲ませてもらったり、あるときはお金を借りたりしたこともあった。

遠縁のおばさんから、ある日見合い写真が送られてきた。洗濯物に困っていた小生はすぐに結婚することに決めた。ところで、新婦は一人っ子である。姓は山村のままでよい。そのうちに何人か子供が生まれるだろうから、一人を加藤姓にして、加藤家を継がせれば良いと言うくらいに考えていた。

ところが、結婚して7年目念願の男子誕生。しかし後が続かず結果的に子供は一人しか出来ないこととなった。その理由は省略する。さて、長男が幼稚園か小学校へはいる前に、親子一緒に養子縁組をして小生も加藤姓を名乗ることとなった。

正直な話、サラリーマンになって10年以上経ち、途中で改姓することに小生は躊躇した。真剣に悩んだ。こんなに自分が悩むのであれば、何人か子供が生まれた後に、一人だけ加藤姓を名乗らされる子供はもっと悩むだろうと思って、これは自分が養子になるべきだと思った。そして当時の小生の職場の上司N氏のご自宅に出かけて、「実は小生は今度、山村から加藤に改姓したいと思う。要するに養子縁組をしたい、子供が一人しか出来ないことがわかったので、こうするより仕方がありません。会社の仕事や顧客との対応などに支障は無いでしょうか?」と恐る恐る尋ねた。すると、部長のN氏はカンラカンラと笑い出して言った「君のことは以前から、本当は養子なんだと思っていた。養子縁組をするのが当然だ。分かった、明日から、もう君の事は決して養子だとは言わないことにする。つまらないことを心配するな。君はまだそんなに偉くは無いのだから。」という反応に、心から有難いと思った。そしてウイスキーを一本お土産に頂いて帰った。

その後、やはり小生の尊敬する別の上司から、養子に貰われることは誇りに思え。駄目男を養子に迎える人はいない。現に自分の友人にも何人か養子になったのがいるが、みんな優秀な人達だ。自信を持って頑張れと激励された。

その後、自分を名乗るとき、山村と呼ばず加藤と呼ぶと昔のしがら みを断ち切って、自意識過剰だった青春時代を卒業できた感じで、 毎日の行動が楽になった覚えがある。

新年を迎え、会社の大部屋に部下たちを集め、今日から山村でなく、 加藤と呼んで欲しいと大声で宣言した。気分がスーツとした。

改姓した初日、隣の席に居た課長代理のH君が「山村さん、山村さん、Nさんが加藤君と呼んでいますよ」と言った。Nさんが早速加藤君と大きな声で呼んだらしい。小生は自分が呼ばれているのに気がつかなかった。未だ、加藤に成りきっていなかった。

蛇足ながら、我が目黒稲門会の大先輩の外岡明氏も外岡茂十郎先 生に貰われた御養子様である。

リレー随想

東京オリンピックにかけた思い

井 村 正 陽(昭和41年·商)

私は昭和37年早稲田に入学と同時にボート部(当時は漕艇部といった)に入部し、4年間をボート部で過ごし、ボート学部ボート学科を卒業しました。ボート部は早稲田で最も伝統ある運動部のひとつです。(明治35年創部は柔道、剣道、弓道、野球、庭球、漕艇の6部) 1.東京オリンピック2度の挑戦

(1) 昭和38年11月の舵つきペアーでのプレ・オリンピック

昭和37年11月開催の全日本新人戦での優勝は早稲田の久しぶりのエイトでの復活の一歩となり、我々37年入部組としては大いに意気があがりました。しかしながら、翌38年5月相模湖での第32回早慶レガッタでは屈辱の4連敗となりました。全部員はこれに発奮し、東京オリンピック出場に向けて血の出る程の練習に明け暮れました。

38年10月は全日本選手権兼オリンピック出場決定戦兼プレ・オリンピックに私たちは舵つきペアーの種目で出場しました。舵つきペアーというのは二人の漕手で一人のコックス(舵)を運ぶもので、ボート競技の中で最も重い種目であります。相棒は同期でしたが、コックスは2年先輩でしかも舵つきペアーで全日本2連勝で3連勝がかかっておりましたので練習は過酷を極めました。

練習の甲斐あってか、予選レースはスタート直後から他を圧倒し、 2位に2,000Mの距離で100M以上の大差でしかも全日本記録を1 0秒近く破る記録で予選を通過しました。

さて、決勝当日はかなりの強風で我々軽量クルーにとっては非常に不利なコンディションでした。スタートダッシュからコンスタントピッチの30以下になかなか落とすことが出来ず、1,000Mを過ぎても他に1艇身程度しか水が開かない状況でした。ますますあせりが出てピッチを上げる結果となり、1,500Mで逆転され、ゴールでは3艇身差で3位となりました。予選であれほどの大差で勝ったのに「なぜ?」という悔いと先輩コックスに3連勝を贈ることが出来なかったという申し訳なさが残りました。また、オリンピックに出られない悔しさをしみじみと感じた次第です。

(2) 昭和39年8月のエイトでの選抜クルーへの挑戦

東京オリンピックへは選抜クルーの出場が決定しておりましたが、この時の選抜クルーは各大学選りすぐりの漕手ばかりで大学の単独クルーには圧倒的に勝てると自信を持っていました。我々早稲田のクルーは7月の早慶戦で慶応の5連覇を阻み大いに意気あがっている状況で、この選抜クルーとの1,000Mの練習試合をする機会がありました。この時の選抜クルーとは半艇身差しか開かなかったということに選抜クルーのメンバーはもとより日本漕艇協会の幹部に激震となりました。勿論、選抜クルーが勝つには勝ったが世界レベルに達していないという事でした。

漕艇協会は急遽、選抜クルーへの挑戦を受けることを決定し、その勝者をオリンピック出場とすることとしました。

8月に選抜クルーとの挑戦レースが開催され、我が早稲田は選抜 クルーに2艇身差での2位となり、結果としてまたもオリンピック出場の 機会を失いました。しかしながら、我が早稲田の果たした役割は非 常に大きかったと自負したものでした。

2. その後のボート人生

東京オリンピックには我が早稲田から選手28名中8名を輩出し、 その中核をなしましたが、当時の我々エイトクルーは留守部隊として の役割を十分果たしえたと確信しておりました。

昭和40年の早慶戦にも連勝し、8月には待望の全日本に優勝し、早稲田ボートの20数年ぶりの隆盛の時の一翼を担うことができました。昭和41年にボート部を卒業し、約40年が経過しましたが、昨年4月の定年退職後もボートに関わり、昨年と今年の早慶戦では60歳以上のOB戦に出場しました。出漕に備えての練習も半年以上を費やすことも出来ました。その時に3年上の先輩は早慶戦に一回も勝てず、今も慶応と並べると勝てる気がしないというトラウマもあれば、我々のように負ける気がしないという年代もあり、40年以上も人生に大きな影響を受けたのがボート部生活でした。

この次は私の同期であり、飲み仲間でもある「ツッチー」こと土川 副幹事長にお願いしたいと思います。

部 か 報 0

囲碁部会

(1) 5月定例囲碁部会

平成17年5月18日(水) 午後1時~5時

3階第一会議室 下目黒住区センター 会費 500円

(2) オール早稲田囲碁祭

5月22日(日) 開催

Cクラス

日本棋院市ヶ谷本院 会費 4.000円

9:30集合 5月18日囲碁会にて徴収

無差別クラス 古川 欽一 八幡和三郎

唐沢 栄-郡山 弘文

高橋 栄一 桑野 祐光 保井 IE.

荒瀬修一郎

伊藤 源喜 ШП 秀朗

平成17年6月13日(月) 平成17年7月 4日(月) 下目黒住区センター 下目黒住区センター

保井 正 部会長

03-3792-9138

美術 · 歷史鑑賞部会 生麦事件歷史探訪

第7回の美術・歴史鑑賞部会は、3月5日(土)に「生麦事件」をテ ーマに歴史探訪を行いました。

幕末の歴史は、一般に新撰組や会津の白虎隊の悲劇がよく知ら れていますが、反面あの時代を流れていた「変革」の現実が忘れら れています。今回の催しは、「生麦事件」とそれに続く「薩英戦争」が、 明治維新に到る幕末の歴史にどのような影響を与えたかを知り、そ の現実に迫ろうというものでした。

幸いシンポジュウムの講師を、真仁田勉氏(前会長、元東京都副 知事、元江戸東京博物館理事長)と高橋栄一氏(月刊東京人編集 長、ジャーナリスト)という豪華メンバーが引き受けてくださり、内容の 充実はこの上ないものになりました。

当日の様子は、石川智子さんが寄せてくれた感想文に譲りますが、 参加者の一人月岡一義さん(さいたま稲門会)の句を紹介して報告 を終わります。

「生麦の 過去追う足も 早春賦 |

部会長 八幡 和三郎

美術・歴史部会には初参加でしたが、非常に楽しい、価値ある一 日となりました。当日はお天気も良く気分も良く、電車に揺られて生麦 駅へ。

「生麦事件参考館」では、館長・浅海氏の生き生きとした説明で、 -気に幕末の臨場感・緊迫感に誘われました。事件跡地を見学し た後は、ビール工場内のレストランにて、生麦事件から薩英戦争、そ して倒幕へと、一気に加速する歴史の濁流を、真仁田勉さん、高橋 栄一さんを講師にシンポジウムとなりました。

深い洞察を平易な言葉でお話頂いたこと、更に八幡会長の名司 会もあって、中身の濃いものでした。 (石川 智子)



麻雀部会

麻雀は呆け防止やストレス解消に役立つゲームとして見直されて きました。

少しでも麻雀に興味のある会員の新規加入を歓迎します。 8月 27日(土)三区連合麻雀大会 西小山クラブ

部会長 土方 正巳

部会長 大野 利幸

ゴルフ部会

第16回春期ゴルフ部会のお知らせ 今年度春期ゴルフコンペが決定致しました。 参加をご希望のかたはTEL/FAX 03-3712-2444 特に初参加希望の方はご連絡ください。 日時:平成17年5月30日(月) 場所:千代田カントリークラブ 交通:サロンバス(目黒通り、山手通り、 適宜ピックアップ(場所指定) 費用:交通費、プレー代、パーティ代含めて約25,000円

カラオケ部会

昔懐かしい歌から最新の歌まで、世代を越えて幅広く、童謡・歌謡 演歌・軍国歌謡曲・クラシック等々、お酒を酌み交わしながら、持ち歌を、 各自特徴のある節回しで歌い、カラオケを満喫して賑わいを見せて おります。先輩・後輩の別なく、時間の合間をみて、楽しみましょう。

部会長 海口昭治

TEL:03-3710-5761 FAX:03-3710-5762

次回 6月 10日(第二金曜日)

午後4時00分~午後7時00分

【場所】「コートダジュール学芸大学店」

目黒区鷹番2-16-18 Kビル B1F

TEL:03(5773)9488 FAX:03(5773)9478

【会費】 女性 ¥1.000 男性 ¥3,000

ユース23

<若手チーム始動!皆さまのお越しをお待ちしています。>

皆さまこんにちは。平成7年・一文卒の石川です。 転職を機に、目黒稲門会に入会して早や2年となります。 学生時代には出会えなかった先輩、後輩、話す機会も少なかった他 学部の方々と語り合える目黒稲門会は、視野を広げてくれる楽しい 場所です。

一方、仕事時間の都合もあり、これまでどうしても若手が参加しや すい機会が少なく、いきなり全体行事に参加するのは気恥ずかしい というという方々も?

そこで、まずは若干小規模の集まりに参加してみたい方のために、 20代~30代+アルファ中心の食事会を開催します。

先輩に負けじと若手も盛り上がってこそ、ワセダ!いよいよ炸裂! 詳細はこれから決定のため、ご興味のある方はまずご一報下さい。 もちろんご家族での参加も歓迎です。

日時:7月23日(土) 夜6時ごろ開始 場所:目黒周辺のお店で、予算5,000円以内を予定。 とりまとめ:石川智子(幹事) 連絡先:090-3537-8321

目黒稲門会ホームページ便り(その3)

今回は掲示板(BBS)ご利用の呼びかけをさせていただきます。ト ップページの左側に掲示板という目次があります。ここをクリックして いただきますと、空欄のボックスの下に、最新投稿から順番に遡って 会話が展開されています。構えることなく気軽に、どのような話題でも 投稿していただきたいのです。現在、他区の皆さんで盛り上がってい ますが、是非、目黒の会員の方々にも、一番上の空欄の「投稿者」のところに本名あるいはニックネームを記入し、「題名」を入れ(アドレス は結構です)、「内容」に話題を書き込んで、題名の横の『投稿』をク リックしてください。あなたの話題から不思議な交友が広がるかもし れません。宜しくお願いいたします。

広報HP担当中西千可子 meguro-tomonkai@nifty.com http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/